

はなやか関西

関西文化の魅力発信シンポジウム

伝統×空想×技術

- 革新してゆく関西文化 -

◆ 第1部：「古き」と「新しき」を包摂する関西文化

講演：河内 厚郎 氏（文化プロデューサー、
関西広域連合 はなやか関西・文化戦略会議委員）

◆ 第2部：新作狂言「勘当息子」 原作 手塚治虫『ブラック・ジャック』より

大藏流狂言善竹家
善竹 隆司 氏、善竹 隆平 氏、善竹 大二郎 氏

◆ 第3部：Tradition×Imagination×Technology

コーディネーター：河内 厚郎 氏
パネリスト：石黒 浩 氏（ロボット工学者、大阪大学特別教授）
梅若 基徳 氏（観世流能楽師）
竹内 オサム 氏（同志社大学社会学部教授、漫画研究家）
吉田 光華 氏（乙女文楽 光華座 代表）

山本能楽堂

〒540-0025 大阪市中央区徳井町 1-3-6

2016年1月24日 日
13:30～16:30（開場 13:00）

定員：200名（入場無料、事前申込（先着順））
主催：関西広域連合
共催：公益社団法人 関西経済連合会
後援：古典の日推進委員会、歴史街道推進協議会
企画：定藤博子

Robovie R3 (ATR 知能ロボティクス研究所開発)



趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピック等に向けて、関西が誇る伝統文化と現代日本の象徴とも言えるポップカルチャー、テクノロジーに注目し、関西文化の歴史、価値について再発見するとともに、それらの相互作用による新しい文化の創造について考え、関西文化の魅力を国内外へ発信するシンポジウムを開催する。

講演：「古き」と「新しき」を包摂する関西文化



河内 厚郎 KAWAUCHI ATSURO

1952年西宮市生まれ。甲陽学院高校卒、一橋大学法学部卒。演劇評論家として執筆業に入り、日本経済新聞の劇評などを担当。「関西文学」編集長を2期15年務める。文化プロデューサーとして大阪市から『咲くやこの花賞』を受ける。NHKの番組審議員やラジオセンター・21世紀プロジェクト委員、デジタルラジオ番組審議員、毎日新聞紙面審議員、神戸夙川学院大学教授などを歴任。現在、兵庫県立芸術文化センター特別委員、阪急文化財団理事、はびきの市民大学学長、「関西・歌舞伎を愛する会」代表世話人、「宝塚映画祭」実行委員長、時事通信の書評（評伝・評論）を担当。著書に『わたしの風姿花伝』『淀川ものがたり』など。2012年度より芦屋市民センター・公民館・ルナホールの業務委託を河内厚郎事務所が受けている。

パフォーマンス：新作狂言「勘当息子」原作 手塚治虫『ブラック・ジャック』より

大藏流狂言善竹家

善竹隆司氏、善竹隆平氏、善竹大二郎氏

原作マンガをベースに、作品の根底にある「人間愛」を表現。狂言という日本独自の表現方法を用い、国や時代を隔てても決して変わらない普遍的なものを再認識するとともに、日本文化の新たな可能性について考える。



パネルディスカッション：Tradition×Imagination×Technology

コーディネーター：河内厚郎氏



石黒 浩

ISHIGURO HIROSHI

1963年滋賀県生まれ。大阪大学大学院基礎工学研究科システム創成専攻教授（特別教授）・ATR石黒浩特別研究所客員所長（ATRフェロー）。工学博士。社会で活動できる知的システムを持ったロボットの実現を目指し、これまでにヒューマノイドやアントロイド、自身のコピーロボットであるジェミニノイドなど多数のロボットを開発。2011年大阪文化賞（大阪府・大阪市）受賞。最先端のロボット研究者として世界的に注目されている。



梅若 基徳

UMEWAKA MOTONORI

中世より代々続く梅若家に生まれ、初舞台3歳より舞台活動を始める。関西を中心に東京、名古屋、福岡など日本各地で活躍。また海外公演にも多数参加し、近年では2015年7月ギリシヤ・エビダクロス演劇公演などに参加。日本の伝統芸能としてだけでなく、文楽や歌舞伎などの古典邦楽、現代演劇、音楽、照明や映像などとのコラボレーションも積極的に模索し、世界に通じる演劇としての評価や可能性も高めていきたいと考える。



竹内 オサム

TAKUCHI OSAMU

1951年大阪生まれ。大阪教育大学教育学部修士課程修了。同志社大学社会学部メディア学科教授。専門分野は、児童文化とマンガ史。著書に、『手塚治虫論』（平凡社 1992）、『マンガ表現学入門』（筑摩書房 2005）、『手塚治虫—アーティストになる—』（ミネルヴァ書房 2008）など。第14回日本児童文学学会奨励賞受賞。マンガ・児童文化研究の同人誌『ピランジ』を主催。



吉田 光華

YOSHIDA MITSUKA

3歳より日本舞踊・若柳流に入門。12歳で名取となる。その後、乙女文楽・吉田光子に師事し、吉田光華を襲名。長年培った日本舞踊の素地を生かし伝統の上に独自の感性を重ね、従来に無い演目を振付け創作。また狂言・落語・浪曲・朗読・洋楽など、さまざまなジャンルとのコラボレーションで、乙女文楽の新境地を開拓し幅広く活動。海外は、フランス・オランダ・オーストリア・カナダ・インドネシア・ラオス・韓国などで公演。

募集要項

200名（入場無料）、事前申込（先着順）、応募締切（2016年1月15日（金）必着）

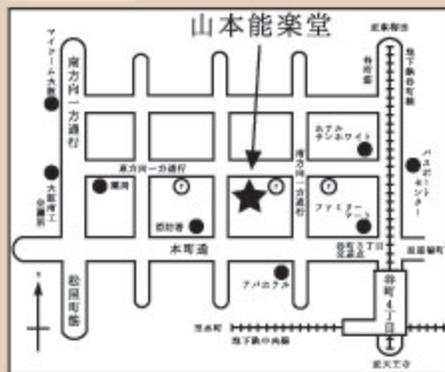
応募方法

郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、電話番号をご記入の上、Eメール、ハガキ、FAXのいずれかでお申し込みください。（※いただいた個人情報は今回のイベントに関連する業務以外の目的では使用しません。）

お申し込み・お問い合わせ

関西広域連合広域観光・文化・スポーツ振興局文化企画課（京都府文化スポーツ部文化交流事業課）
〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
電話：075-414-4287
FAX：075-414-4223
Eメール：bunkakoryu@pref.kyoto.lg.jp

アクセス



大阪市営地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車。（4）番出口より徒歩約2分。
※公共交通機関をご利用ください。
公益財団法人山本能楽堂
06-6943-9454

関連シンポジウム — 文化庁・文化プログラムシンポジウム —
「地域の文化芸術によるコミュニティデザインの観点から、文化プログラムを考える（仮称）」
平成28年1月31日（日） 京都市内（予定）